

# 令和6年度 学校評価

秋田県理容美容専門学校

## 1. 学校の教育目的

美容技術を教授・指導し、専門的知識と技能を修得させ、美容師を養成する。

## 2. 学校の教育目標・育成人材像

- ・職業人として必要な学力・技術を身につけさせる。  
特に国家試験合格のための学力・技術の修得を目指す。
- ・社会人として必要な礼儀を弁えた人間を育てる。  
特に挨拶・言葉遣い、他人に対する心遣いを養う。

## 3. 重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ①学生指導の強化

- a. 授業への意欲を高める
- b. 社会人となる為のマナーの向上（挨拶の徹底、言葉遣い等）

### ②学生募集活動の強化

- a. オープンキャンパスの検討（新しい取り組み）
- b. 高校訪問等での卒業予定者（高校生）への情報発信
- c. 学び直し、長期高度人材育成コース対象者の募集
- d. 効果的な宣伝方法の検討（TV・新聞・インターネット等）

### ③教員の質の向上を図る

- a. 研修会等への積極的な参加を図る
- b. 学生指導の方法や充実した授業内容について等、教員の意識向上を図る。

#### 4. 評価項目の達成及び取組状況

##### (1) . 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 学校の教育目標・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・B 学校の教育目標・目的・育成人材像・特色などが 学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・C 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

##### (取組状況・成果・課題)

- A 学校として、明確に定めている。(前述1・2のとおり。)
- B 学校行事や説明会、入学後のオリエンテーション等で、本校の方向性について説明している。保護者においては、入学説明会や入学式にて必ず周知を図っている。
- C 業界の求める育成人材像に近づけるために、ガイダンス等を通して、毎年、数社の業界の先生等と意見交換・情報交換をしている。

##### (2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・B 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・C 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されて いるか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・D 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・E 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されて いるか	④	3	2	1
・F 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

##### (取組状況・成果・課題)

- A・B 学校評価冒頭の目的、目標を軸とし、学校の方針、計画等が策定されている。これに基づき教職員間で協議を重ねている。
- C 運営組織・意思決定機能に関しては、学校が行う全ての事業における決定権限は、稟議書により、校長・理事長の承認のもと明確になっている。また、理事会の決議を必要とする案件等は、議決を経て適正に決定している。
- D 問題なし
- E Cと同様、校長・理事長により、承認決定が明確になっている。また、理事会・評議員会による決定が必要な事案は適切に意思決定がなされている。
- F 学生に関する管理(学籍・時間割・成績・出欠・健康管理等)を一元的に行っている。外部への情報漏洩がないよう整備がとられている。

(3) . 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 教育目的等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・B 教育目的・目標、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・C 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・D 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・E 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・F 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・G 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
・H 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

<p>(取組状況・成果・課題)</p> <p>A・B 教育目的・目標や学校規定に定められている修業年限、また、教育到達レベルや学習時間の確保においては、実施方針等で明確に定められている。特に教育到達レベルにおいては、専門スキルに応じて、目標を設定し、検定・資格取得等で明確に設定している。</p> <p>C 各教科の指導計画案（シラバス）に添って策定がなされている。</p> <p>D 毎年1週間の期間を設け、県内サロン様9社にご協力いただき2年生のインターンシップ・サロン実習を実施し評価を得ている。各提携先サロン様のご厚意により生徒にとっても有意義なサロン実習となっている。いつもの学校生活では経験することのない緊張の中、各々の就職後を見据えたイメージを構築することができたのではないかと思われる。実のあるサロン実習となったようだ。</p> <p>E 学則・内規等で明確に定められている。</p> <p>F 特にAFT色彩検定、JNECネイリスト技能検定試験、JNAジェルネイル技能検定試験、エステティックディプロマ、メイクアップディプロマに対しては、単位授業としてカリキュラムを組んでいる。新しく任意検定として導入した「アイブロウトリートメント」3級取得を1年次に取り入れたところ、学校側の想像を超えた希望人数となった。また、JBCAビューティビジネス実務検定、ビューティ・コーディネーター2級・1級、任意で行う日本化粧品検定の資格取得が可能となった。上記検定試験の2級・1級取得を目指す生徒にとってはスキルアップの向上に繋がった。生徒の検定合格率に関しては、その年によってバラつきが見られる為全員取得とはいかなかった。指導側の発信の仕方等について検討をしたつもりだが、まだまだ不十分のようである。資格取得についての生徒の捉え方などを踏まえ、今後も検討が必要である。</p> <p>G 規定条件に見合うよう業界の経験年数、勤続年数を積んでいる教員数の確保ができています。 (常勤・非常勤共に)</p>
---

(取組状況・成果・課題)

H 実技に関しては、毎年、定期的に校内研修を行っている。また、国家試験対策として教員間でのズレが生じないように、細部の確認等を十分に協議して取り組む事等で職員の能力開発に努めた。職員のスキルアップとしてもっと様々な研修を取り入れたいところだが、日々の授業との調整が難しく課題となっている。

今年度参加した研修会等

- ・令和6年6月19日(水) JNA日本ネイリスト協会 総会
- ・令和6年8月7日(水)～東北地区連絡協議会 令和6年度 即戦力研修会(全5回)
- ・令和6年8月19・20日(月・火) MSOJ 日本メイクアップ連盟  
アイブロウマニエスト講習
- ・令和6年9月26・27日(木・金) 東北地区理容美容学校教職員研修会(福島)
- ・令和6年10月18日(金) 全国専修学校各種学校総連合会 東北ブロック大会(青森)

(4) . 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・B 資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・C 退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・D 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

A 毎年2年生の4～5月に集中的にガイダンスを行っている。昨年に引き続きガイダンス等を受けもつ媒体を通して、同分野校との合同就職ガイダンスを行った。1・2年生全員が県内・県外問わず対面ガイダンスでの参加となり、直接話を聞くことにより、有意義な就職情報を取得することができた。これにより、生徒の就職に結びついたとの報告があり、今年度も就職希望者100%の就職率を達成することができた。(全て美容関係となっている。)

各サロン様にもご協力をいただき、会社説明だけでなく、サロン現場の生の声を聴くことにより、理美容業界の現実に触れたり、就職後のイメージを身近に感じたりすることが、就職への意識改革につながったようだ。

昨年に引き続き、1年生に向けての就職授業を行った。就職活動についてのイメージができていない1年生にとって、専門の媒体を通じて模擬面接への準備態勢を整えることができた。今回初めての取り組みとなる模擬面接に関しては、初めて集団面接を体験し、態度、姿勢、話し方、内容について等、日頃共にする生徒同士の意外な一面を感じたようだ。その後の就職活動に良い影響があったとし、今後も継続できるよう、また生徒の就職への意識がさらに高まることを期待している。

(取組状況・成果・課題)

B 主となる検定は全て認定校となっている為問題なく行うことができた。今年度よりアイブロウトリートメント検定を新しく取り入れた。検定内容は次の通りである。

5月 日本化粧品検定 (1級 任意) 合格率 100%

6月 AFT 色彩検定 (2級 任意) 合格率 80%

10月 JNEC ネイリスト技能検定試験 (3級) 合格率 93%

11月 AFT 色彩検定 (3級) 合格率 64%

11月 JBCA ビューティビジネス実務検定 (3級) 合格率 78%

JBCA ビューティ・コーディネーター (2級) 合格率 75%

2月 JNA ジェルネイル技能検定試験 (初級) 受験 (結果 4月)

2月 MSOJ 日本メイクアップ連盟 アイブロウトリートメント検定 (3級)

国家試験については、令和6年3月卒業生が実技試験全員合格 (100%)、筆記試験 (90%) を達成することができた。筆記試験において3名の不合格となってしまった。その年、その年の出来具合は当然あるが、いつでも全員到達できるよう指導体制を確率していく事が重要課題となる。これまで以上に個々の能力を高める指導を強化して行く必要がある。

C 今年度は1年生で3名、2年生1名の中途退学者が出てしまった。理由は進路変更や目的意識の喪失が主な原因となっている。近年の傾向として心理的な要因が長期欠席につながり、他学生との実力の差が出てしまうことによる意欲喪失、バイトにより高収入を得た事での満足感、また人間関係の構築等も1つの要因となっている。学校の対応としては、各学年に担任教員を配置し、ホームルーム、個人面談等を通して、学生の問題の早期発見に努め、その都度、何回かカウンセリングを行い、保護者とも連絡をとり合いながら適切に対応しているつもりだが、他の起因も模索しながら職員間での検討を行いたい。

D 就職先より卒業生の情報を得られている。ガイダンス等を通じ、就職先との交流もなされている。また、卒業生が学校と連絡をとってくれるため、情報を得られる体制となっている。

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・A 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・B 学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・C 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・D 保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

A・B 担任制をとっているため、個人面談、教頭を交えた三者面談等で対応している。

就職支援に関しては、2年生の4月～5月に企業と連絡を取り合い、校内でのガイダンスを行い、特に県外希望の生徒に関しては、企業の話を持直接取得できるので、交通費などの無駄がなく、就職活動を行うことができる為、今後も継続していきたい。

C 学生の健康管理としては、週1回カリキュラムとして体育の授業を行い、健康増進を図っている。他、年1回の健康診断を行っている。

(取組状況・成果・課題)

- D 保護者との連携体制に関しては、主に担任が適宜連絡をとっている。特に、朝の連絡がない欠席・遅刻者に対しては、担任から生徒へその都度連絡をとり、欠席が継続する場合は保護者への連絡を欠かさず行っている。また、学期毎に成績表や学校からの連絡案内等を保護者宛に通知し、連携体制の構築に努めている。

(6) . 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
・A 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・B 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・C 防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 当該専門学校における施設・設備等は、美容師養成施設規則に則った施設・設備となっている。全館の空調設備、電気機器を新調し、生徒にとっても快適な環境で学校生活を送ることができている。
- B 学校閉鎖期間や学校行事の日以外、生徒が自主練習できるよう放課後・土曜日・長期休暇等学校を開放している。インターンシップに関しては、2年生のサロン実習を県内企業の協力を得て行うことができた。生徒にとっては充実感のある、また、就職へ向けての大きな自信に繋がる研修となったようだ。
- 海外研修に関しては、10数年前よりヨーロッパのカット研修を主として行ってきた。1週間の研修ではあるが、普段とは違う異国での体験は、今後の美容人生において、とても有意義な研修となっていたようだ。社会情勢の影響によりヨーロッパ研修は難しい状況だった為、昨年度に引き続き、韓国ソウルでの研修となった。先輩の情報があったため、事前準備がしっかりなされていたように感じる。カット研修もとても充実したものとなり、生徒も久々の旅行だったようでとても喜んでいて。今後も様々な経験ができるような機会を提供していきたいと思っている。
- C 防災対策は、消防計画に基づき、点検・検査を実施し、火災・事故等を予防するとともに、自衛消防組織を編成している。本計画により、火災・地震発生時の初動活動・避難誘導等に対応できるよう役割分担も明確になっている。また、毎年、同法人の高校と一緒に大規模な避難訓練を行い、災害に対して万全を期している。

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・B 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・C 学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 学生募集活動は、秋田県専修学校各種学校協会の定めた募集時期に関するルールを遵守して実施している。学校のHP、パンフレット等を通し、適正な広報となっている。県内の高校を訪問し、高校の先生からいただいた意見も参考にしながら、募集活動に活かしている。また、学校で決定した媒体を通して、高校生に直接説明ができていのは大きな成果となっている。また、今年度は秋田県専修学校各種学校協会からの陳情により、秋田県主催の進学ガイダンスが行われた。今後も継続できるよう全体で協力していかなければならない。
- TikTok や Instagram の発信については、発信間隔が空きすぎないように努め、社会のニーズに合った発信ができるよう今後も広報活動に活かしていきたい。12月のイベントの際には1・2年混合グループで Instagram のいいね！数を競い合う作品発信を行った。生徒の生き生きとした表情があり、とても盛り上がったイベントになった。
- B 教育成果の伝達については、ガイダンスや体験入学等を通して、教員・生徒が忌憚のない意見を述べている。特に体験入学時、在校生と体験者（高校生）間での意見交換等については、とても参考になる事項が多い。得られた意見を募集活動がさらに良くなるよう、もっと活用していきたい。
- C 入学金・教育充実費・授業料・教材費等、近隣県の同分野である他校よりも安価になっているが、昨今の社会情勢を鑑みると今後は検討せざるを得ないかもしれない。一方、令和2年度から行っている修学支援新制度・日本学生支援機構の給付型奨学金を活用する生徒が年々増加しているように見受けられる。また、本校独自の奨学特待生制度での給付やAO入試特典給付制度に至ってはほぼ入学生全員が対象となっているため、家計の負担は若干なりとも軽減されていると考える。

(8) . 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
・A 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
・B 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・C 財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
・D 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A・B・C・D 特に問題なし。毎年、財務に関して問題はない。継続していきたい。

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・A 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・B 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・C 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
・D 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

(取組状況・成果・課題)

- A 法令・専修学校設置基準・養成施設指定規則等の遵守と適正な運営に努めている。
- B いかなるデータも学校外への持ち出しは禁止している。また、外部への漏洩はもちろんコンピューターのウイルス感染等にも細心の注意を払っている。
- C 毎年、自己評価を行い、職員との共通認識の元、改善点を検討し、対応を図っている。すぐに解決しない問題があれば、少しずつ対策を施していく。
- D 自己評価結果の公開については、ホームページで公開している。また、学校関係者評価を実施し、学校ホームページ上に掲載し、公表している。

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・A 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・B 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1

- A 各方面より依頼のある社会的活動に対してはできる限りの対応をし、支援している。企業からの依頼に関して、学生の希望者を募り、美容業のPRを兼ねて、ボランティア活動を幅広く行っている。学生にとってもとても良い機会となる為少しずつではあるが活動の奨励、支援を広げていきたいと思う。
- B 平成31年より2年コースの委託訓練も実施している。今年度卒業を迎える2名が無事に就職内定を取付けている。後は資格を取得し美容師として活躍されることを願っている。今年度も3名の入学者を受け入れた。卒業した先輩に続き頑張ってもらいたい。公共職業訓練に関しては、H22年から実施している。約80人の受講者を受け入れている実績がある。短期の公共職業訓練（ネイル科）は、新型コロナウイルス感染症の影響から開校することできないままである。資格取得率、就職率が非常に良かったこともあり、とても残念な結果となっている。